

現金書留が突然自宅に 中に森山氏の手紙

金品受領 福井県元幹部が証言

関西電力の役員や福井県幹部職員が同県高浜町の元助役・森山栄治氏（故人）から多額の金品を受け取っていた問題で、高額な金品を受領した複数の元県幹部が朝日新聞の取材に実態を証言した。現金書留が突然自宅に届くなど、半ば強引に送りつけられた例もあった。21日に公表された県の調査報告書によると、7人が返していないかった。

約15年前、突然自宅に現金書留が届き、中には現金10万円と商品券10万円が入っていた。10年ほど前に退職した、原子力対策などを担う安全環境部の元部長は、そう証言した。

県の調査報告書によると、県職員が受け取った最高額（商品券を含む）は20万円、2人いた。元部長はこのうちの1人だ。

現金書留には、部長就任を祝う森山氏からの手紙が同封されていた。以前に人権研修で一度会っただけの関係。「びっくりした」。不安になって部長経験者に相談したところ「返さないほうがいい」と助言され、高額商品を送り返すことに決めた。

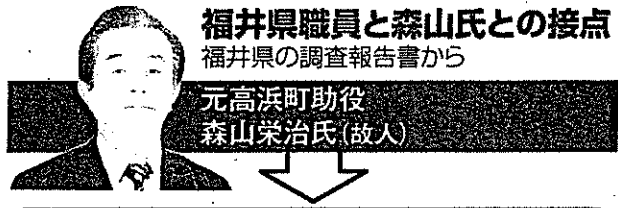
名産品のPRを担当する産業労働部の職員に相談すると越前焼のつばを勧めら

っていた人はもっと多いのでは」と話す。

菓子箱の下に…

10年以上前、県内の土木事務所長を務めた元幹部に森山氏から怒りの電話が入った。「なぜ、まだあいさつに来ないのか」。就任から1カ月ほど経っていた。しばらく後、若狭牛と高級魚の詰め合わせを持って京都市内の自宅に駆けつけた。叱責の言葉はなかった。菓子箱の中に入っていた菓子を受け取った。事務所に戻り、袋の中を見ると、菓子箱の下に2万円分の商品券が入っていた。

県の調査に回答した313人のうち、109人が金品などを受け取ったと申告した。ただ、調査に強制力はない。元部長は「受け取



福井県職員と森山氏との接点
福井県の調査報告書から

元高浜町助役
森山栄治氏（故人）

関係・接点あり 180人
金品など受領 109人

高額受領者 21人（未返礼7人）

主な金品受領の例

- 商品券10万円
- 現金 10万円
- お菓子の下に商品券 2万円
- 商品券10万円
- 純金小判 1枚（10万円相当）

返した品

- 越前焼のつば（8万円相当）
- 手土産を持参
- 中元・歳暮など（商品券相当額）

退任前、再び手土産を持って森山氏の元を訪れた。「今度は何も受け取らなくて済むよう、玄関先でサツと渡してひきあげた」

このほか、戒告処分を受けた50代の職員は2014年度に森山氏を訪問した際、10万円相当の純金小判と10万円分の商品券を受け取っていた。報告書によると、その場で戻そうとしたが反発され、翌日に電話して返そうとしたが拒否された。仕方なく受け取り、商品券10万円分についてはつり合っ品を中元や歳暮で贈ったという。

福井県の職員服務規程には、金銭や物品の贈与を具体的に規制する記述がない。一方、国家公務員倫理法では、本省課長補佐級以上の職員が5千円以上の金銭や物品などの贈与を受けた場合、報告書の提出義務を定めている。県は調査委員会の提言を受け、職員が一定額以上の金品の贈与を受けた場合、報告させる制度を年度内にも導入する。

ある県幹部は「具体的な規定があれば、問題がこれほど広がることはなかったのではないかと話す。

（堀川敬部、市原研吉）